

キャクストン版『黄金伝説』の校訂版作成：第1巻および第2巻

Editing Caxton's *Golden Legend*: vols 1 & 2

田口まゆみ (TAGUCHI Mayumi)

William Caxtonは英国に印刷技術をもたらしたことで有名ですが、Chaucerの『カンタベリ物語』などの既存の英文学作品に加え、自らも多くの伝説、オランダ語作品を英語に翻訳し、出版して広めました。その中でも特に大きな出版企画がヴォラギネによる『黄金伝説』（*Legenda aurea*）の英訳版でした。『黄金伝説』（*Legenda aurea*）は当時のヨーロッパのベストセラーで、キャクストンはフランス語の翻訳(*Légende dorée*)を中心に使用し、ラテン語原典と英語の先行訳(*Gilete Legende*)も参照しました。『黄金伝説』（*Legenda aurea*）は聖人伝と祝祭日を扱った話で構成されていますが、キャクストンは、これに（当時聖書の英語訳が禁止されていたにもかかわらず）新しい旧約聖書物語を加えました。私の研究課題は、キャクストン版『黄金伝説』のうち、最初に配置されている祝祭日の意義を説明する物語（Temporale（期節）；キリストの生誕から受難・復活・昇天の祝祭日を扱うものであるため新約聖書物語に対応する）と旧約聖書物語を校訂し、2巻本として刊行することでした。

この企画は、John Scahill博士（元慶應義塾大学教授）および徳永聡子博士（慶應義塾大学准教授）を共同研究者に迎え、ほぼ7年前に芽生えました。翌年、オックスフォード大学に拠点を置く、Early English Text Society（初期英語文献協会）に出版準備を打診し、本協会のサポートを受けて本格的に始動しました。この翌年には、2巻の準備・出版を目的に掲げて、科学研究費基盤(B)(5年)を獲得、その後も順調に研究が進みました。

2019年度、5年の科学研究期間の最終年度を迎え、研究課題を完了できる見込みが立ちました。同時に、本研究の集大成として国際シンポジウムを企画しました。

【成果】

1. 研究課題「キャクストン版『黄金伝説』の校訂版作成：第1巻および第2巻」を2019年7月末に完成。Early English Text Society（初期英語文献協会）に完成原稿を提出しました。当協会の年次理事会（9月）において審査を受け、年2冊の定期刊行物として承認され、第1巻は2020年、第2巻は2021年に刊行が決まりました。そのため、秋以降は、第1巻の出版準備がオックスフォード大学出版局との間で進行し、無事、2020年7月30日、EETS Original Series 355として出版されました。
2. 国際シンポジウムの開催：「Editing and the Interpretations of Texts: Past, Present and Future Practices」を2部構成で実施しました。①4名の海外研究者（Middle English Textsシリーズ、およびEarly English Text Societyの監修者たち

3名と科研課題海外共同研究者) および3組・6名の国内の中世テキストを校訂している研究者を招聘し、日本中世英語英文学会55周年記念大会企画シンポジウムとして開催しました。パネリスト12名が並ぶ、大シンポジウムになりました。②上記の海外招聘者のうち3名を講師として、京都大学で講演会を開催しました。両企画とも、多くの人に喜んでいただくことができました。